



# データの利活用に向けた取組み

## G空間情報センターとの連携

- 3次元データの普及・拡大にあたっては、G空間情報センターの情報等と併せて活用することで、様々な利活用モデルの実用化を図ることが可能となるため、積極的に連携を図る

## 3次元データの仕様の標準化

- 2017年度は橋梁及び土工、2018年度はトンネル、ダム、河川構造物（樋門・樋管）におけるデータの標準的な仕方を整備。またファイル形式については、国際標準化の動きとあわせ、順次、国際標準を適用する

## 2次元図面の利活用

- 電子納品保管管理システムに格納されている2次元図面を活用し3次元データ化する方法を2019年度までに開発し、転換を図る

## データの流通・利活用システムの構築

- 「CIM導入推進委員会」において、2018年度までに3次元データを効率的に流通・利活用させるシステムの仕様等を取りまとめ、2019年度からシステムを構築する

## 3次元データ利活用モデルの実現支援

- 国土交通省が持つ3次元データと、国や地方公共団体等が持つ地形・地盤・気象・交通情報などのデータを連携して活用することにより、様々なモデルの構築が可能となるよう、データのオープン化など3次元データの利活用が促進される環境を整備する

## 推進体制

- 「i-Construction推進コンソーシアム」と「CIM導入推進委員会」が連携しながら議論を進める
- 産が持つ3次元活用ニーズや保有するデータと学が持つ3次元活用の見識を連携させて研究を進めることが重要。このため、民間企業と大学が連携した研究体制と国も連携することにより、オープンデータ化など3次元データの利活用が促進される環境を整備する
- 発注者の知識向上に向け、CIMに関する研修の充実、CIM活用事例集の作成を図る

## スケジュール

2016年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT土工の実施</li> </ul>
2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT舗装工、ICT浚渫工の実施</li> <li>・ ECI方式を活用し、3次元データを設計・施工の一気通貫で活用する試行事業の実施</li> <li>・ 橋梁及び土工において3次元データの標準的な仕様の策定</li> </ul>
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合評価落札方式・新技術導入促進型の活用により3次元データの活用による施工、監督・検査の効率化及び高度化を図るための技術開発を展開</li> <li>・ トンネル、ダム、河川構造物（樋門・樋管）において3次元データの標準的な仕様の策定</li> <li>・ 3次元データの流通・利活用に向けたシステムの基本仕様の策定</li> </ul>
2019年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 橋梁、トンネル、ダム、河川構造物、港湾構造物（基礎工等）、維持管理において3次元データの活用拡大</li> <li>・ 電子納品保管管理システムに格納された2次元図面を活用し3次元データ化する方法を2019年度までに開発し、転換を図る</li> <li>・ 3次元データの流通・利活用に向けたシステムの構築</li> </ul>